

### 3. 紹介「海外に学ぶ」：歴史遺産保全とくらしの両立 ドイツ・ローテンブルグ (Japa 理事 小畑さいち：青山学院大学元客員教授)

#### 「ドイツ・ローテンブルグ“Rothenburg ob der Tauber”」

ローテンブルグ（正式名 Rothenburg ob der Tauber）は、ドイツ・バイエルン州に属する人口約 1 万人超の地方小都市である。観光街道であるロマンチック街道の中間にあり、木組みの建物（Fachwerk）と城壁に囲まれた中世の風情が残る歴史都市である。観光都市としてのローテンブルグは「ロマンチック街道」の設定で一層の注目を獲得している。

中世ドイツは神聖ローマ帝国統治下で地方分権により領邦・都市など 300 余が分立し、文化・歴史・伝統など独自カラーを持つようになった。特色ある観光地を結ぶ「観光街道・Ferienstraße」構想が発案され、1927 年に「ドイツ・アルペン街道」が最初の観光街道とされる。

第二次世界大戦後にもこの構想が引き継がれ、産業が壊滅的となったドイツ復興の主演として街道構想が復活。そのひとつが「ロマンチック街道」(Romantische Straße)で、観光街道として名を高め世界的な観光ブランドとなった。当時、バイエルン州は米軍の占領地として米軍軍人・軍属が多数駐留、彼らを観光リスト対象として米国人に分かりやすいイメージとして「ロマンチック街道」と称したとされ、彼らのヨーロッパ歴史のあこがれを基に中世都市としての歴史的景観・雰囲気の魅力のアピールした。さらに、ロマンチック街道の「ディスネーション・キャンペーン」により、全世界に向けPRした。この中で、特に人気を得たのが歴史都市「ローテンブルグ」、城塞都市「ネルトリンゲン」(Nordtingen) と「ノイシュヴァンシュタイン城」(Schloss Neuschwanstein) などとされる。

ローテンブルグ市は、中世にいくたびの戦火を経て、衰退をたどり、発展から忘れ去られた街であったが、鉄道開通でこの街がノスタルジックな面影を残す観光地として見直しがなされた。さらなる振興を目指し、景観を重視し、1910 年に革新的な都市景観保全条例を制定した。

しかし、1945 年、連合軍の空襲により、市庁舎が破壊され市域の約 4 割が焼失した。この戦災による復興について、「再生復興」か「新規市街造成」かが論争され、住民投票により、観光による再生復興が採択された。この結果を受けて、ローテンブルグ市は、都市景観条例で外壁や屋根の補修に、中世風景観に添うように建築指導指針を決めた。1950 年には建築基準によって外装・建築様式など景観を保全し、往時の市街景観を忠実に再生する景観整備を進めた。建築規制細目としては、外壁、窓、屋根、建物高さ、改築工法、建材の材質指定、街の雰囲気・街の景観にマッチしないものは排除し、店舗の広告掲示についても、飾り看板としてスケッチによる事前審査でデザインや色彩など合格した上で認可することとした。

このような施行条例により、歴史的景観が良好に保たれ、魅力ある観光地として美観向上を果たした。その結果、人口わずか 1 万人余りの街が年間観光客は 100 万人以上を集めるような人気観光地と賑わいを増した。また、建築規制は 20 年ごとに見直され、計画を策定する段階から市民が参加し、行政と市民の間の意見交換を行い意見も取り入れようとした。この様な細かい

規制は建物の建設・維持コスト増となるが、連邦政府・州政府・市などから援助が行われ、さらに企業・訪問者などから寄付など協力も要請することとした。

### 【観光都市ローテンブルグの変化と対応】

観光都市としての成功の反面、観光で生じる騒擾（そうじょう）、老朽化による建物保全の修築・維持費コスト高とくらしの不自由さなどにより城壁内から逃れるように外部へ住民が移住し空洞化が生じてきた。このため、ローテンブルグ市は静的保存だけでなく、地域創生の面から観光と住民のくらし活動の保全バランスを迫られようになった。

旧市街における生活居住環境の向上も考慮し 1991 年に都市建築条例を改定し、改築に伴う建造物の保全とくらし居住環境の改善のために 1 階は店舗、2 階はオフィスなど業務用、3 階以上は住宅を基本とする使い勝手の良い店舗・住宅併用へ工夫、店舗運営配慮など支援も進めた。

この結果、城壁内での生活し易い環境への回復により、徐々に城壁内へ市民が戻る傾向が現れた。また、旧市街は木造建築物が多いため防火対策を備え住民の安全性に配慮するなど、災害に強い安全な居住地区へと改善。また防災のために従来の材質規制にこだわらず、燃えにくく外装と景観に違和感のないような現代建材の使用を認めるように、建築基準の柔軟な改定も行った。さらに、住民・観光客の高齢化によるバリアフリー対応街づくりの工夫など、ニーズ対応と次の課題へ取り組んでいる。

[出典：参考]

- (1) <https://www.rothenburg.de/startseite-top/>
- (2) <https://www.romantischestrassen.de/>
- (3) “ドイツの観光政策と観光振興” 立命館アジア太平洋大学 小方昌勝 2016
- (4) “ロマンチック街道の誕生” ドイツ観光局日本事務所 大畑 悟 2015
- (5) “Journey through Bavaria” Ernst-Otto Luthardt Stuert Verlag 2019



ローテンブルグ市庁舎とマルクト広場



ローテンブルグ旧市街景観例（パステルカラー調外装・木組み Fachwerk 家屋外壁）